

平成 29 年度 第 4 回古賀市文化芸術審議会議事録

日 時：平成 29 年 12 月 27 日（水） 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分

場 所：市役所第 1 庁舎 4 階第 2 委員会室

出 席：審議会委員 緒方泉会長、中山早由利副会長、加藤潤二委員、坂崎隆一委員、
志賀満江委員、豊村良子委員、西野宏委員、結城俊子委員

事務局 清水万里子教育部長、星野美香文化課長、木村眞由美歴史資料館長、
川原幸恵文化振興係長、文化振興係主事田中音羽

欠 席：審議会委員 平井康之委員、米倉小夜子委員

傍聴者：な し

配布資料

- ①レジュメ（第4回古賀市文化芸術審議会次第）
- ②古賀市文化芸術振興計画アクションプラン見直し（案）
- ③宗像市の文化芸術のまちづくり10年ビジョン計画の見直し資料（A3カラー1枚）（会議後回収）
- ④宗像市の文化芸術のまちづくり10年ビジョン計画の評価シート資料（A4白黒1枚）（会議後回収）
- ⑤子ども読書推進計画
- ⑥第3回の審議会議事録

（司会：川原文化振興係長）

1 開会の言葉（清水教育部長）

2 会長あいさつ

3 協議事項（田中）

（1）古賀市文化芸術振興計画の見直し・評価について

はい。ではご説明させていただきます。古賀市文化芸術振興計画では来年度を中間見直しの年としております。本市の計画見直しにあたり、以前、審議会でも宗像市のものがわかりやすいので参考にしたらどうかというご意見をいただきましたことから、宗像市のほうに計画の見直しに関して、どのように行ったか係長とともにヒアリングに行きました。その際に委員の皆様は参考資料としてお配りしました資料をいただいております。A3カラーのほうの資料をご覧ください。計画の見直し部分を簡潔にまとめたものになります。重点的に行っていく目標の下に具体的な事業名や方向性を記載し、後期に新たに加えた文言等については青色で記載しているとのことです。本資料を参考にして、古賀市文化芸術振興計画アクションプラン見直し（案）という資料を作成いたしました。そちらをご覧ください。後期（平成30年～34年）の実行計画としてよりわかりやすく何をしていくかということを示すために、以前より本審議会でも報告してございました現在実施している文化芸術関連事業を入れ込みました。またそれに伴い、目標の文言についても、少々変更しております。まだ来年度予算が確定していないため、実行できるか未確定のものとして（仮）となっている事業もございます。本資料を見直し（案）としておりますが、これは事務局として変更したいと考える部分のみを上げているものであり、どこまで見直すか、どのような見直しを行うか、委員の皆様のご意見をお聞きしながら進めていきたいと考えております。来年度初回の審議会でも正式に市長より諮問を行い、12月上旬までに見直し（案）をまとめ、答申いただくという予定にしております。今回は皆さまに見直しの範囲や、見直しの方向性、また進捗管理を行うための事業評価についてどのようなものがふさわしいかご意見をいただければと思います。特に評価については、以前より文化芸術事業の指標を何とするか事務局として頭を悩ませており、皆様のご意見をいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

（緒方会長）

今日の進め方ですが、事務局から説明はありましたが具体的にはどのように進めましょうか。

(事務局)

先ほどの説明のとおり、この計画は10年計画で今回は中間見直しにあたります。大きな方針や枠組みを変えるものではありません。本日提示しているアクションプラン(案)をご覧ください。前期の計画では、「●歴史資料館などの」と記載している内容を後期(案)では「リーパスプラザこがなどの」と表記は変えていますが、方向性として大きくは変えていません。また、前期ではこの項目に対して取り組む事業が分かりにくいというご指摘もあり宗像市を参考に事業名を記載するようにしています。例えば、この事業はこの項目より別の項目に、またこの項目には事業が少ないのでしっかり取り組むべきではなどのご意見をいただければと思います。ただ、本日は事業の細かな内容というよりは、大きな視点でのご意見を頂戴できればと考えています。

(緒方会長)

では、全体的に感じたことやご意見などあれば順番に意見を頂戴しましょう。

(中山副会長)

子どもへの取り組みが重要。こども考古学部、こども図書館員はとて面白い事業だと思います。その後はいかされていますか。

(結城委員)

身近に文化に触れることができる地域とそうでない地域と差があると思います。小野地区は特に交通の便からしても色々なイベントが開催されているけれどリーパスプラザまで行けない。お年寄りや子どもたちは特にそうだと思います。星空のコンサートや美術展などを地域にぜひ出張してほしい。薦野などは星空もきれいなので、野外コンサートもいいと思います。地域との連携についてはどこにも書いていないのでぜひやってほしいです。

(緒方会長)

アウトリーチ事業はとても必要なことだと思います。地域の特色を生かした事業が出来ればなおいいですね。

(西野委員)

史跡ボランティアとして関わるなかで、最近の見学者は端末を持っています。現地案内で言葉に詰まるとすぐに自分で調べてくれます。時代の移り変わりが早い中で対応していかなければならないことを考えると5年というスパンは長いと思います。3年位がいいんじゃないですか。

(緒方会長)

現在のアクションプランは短期は5年で具体的な事業、長期は10年で抽象的な事業となっていますね。短期3年、中期5年、長期10年という三段階にしてもいいかもしれませんね。また展覧会でも最近QRコードを使って、もっとよく知りたい人達に対応するような、多くの情報を求める人をフォローする方法がとられたりしています。新たなツール、道具が必要になってきている。それらに対応するような勉強が必要かもしれません。

(豊村委員)

宇美町の歴史資料館で古賀市と糟屋郡16校の中学校の先生が、授業で作成した秀逸な作品を選定し展示しているが、古賀市の子どもたちは距離のこともあってなかなか見に行けないことがあります。せっかくの作品なので古賀の三中分を古賀市内のリーパスプラザこがなどで改めて展示出来たらいいなと思っています。

(緒方会長)

リーパスプラザこがでもいいので、知っている子の作品や同じ学校の子の作品など子どもたちがそれを観て、学んだり、まねたり、学習の機会にもなり、子どもたちの刺激になるいい機会にもなる。巡回美術展という形になるのかな、出来たらいいですね。

(中山副会長)

子どもたちは同じ年齢の子の作品を見ることで刺激されます。

(志賀委員)

そういったこと学校からの要望などを受けてくれる窓口はどこですか。

(事務局)

文化のことであれば文化課、学校教育のことであれば学校教育課、そのどちらにも当てはまるようであれば両課で協議することもあります。

(志賀委員)

そうですか。文化協会でも協力できることがあるかもしれません。ぜひご相談いただければと思います。似たような事業として今年度で終了予定のこども美術展がありますが、とてもいい事業で、子どもたちにも親御さんたちにも好評でした。終わってしまうことになって大変残念です。アクションプラン見直し(案)について、今は事業名が一文だけ書かれています、どのような事業なのかよくわからないので、もっとくわしいことがわかるといいかなと思います。

(西野委員)

それは私も感じました。概要とか少しでも書かれていればいいですね。

(緒方会長)

両課で協議も出来るということだから、相談してみたらいいかもしれません。プランに事業名を出す、事業の内容や担当課がわからないという意見は必ず出るので、次回は各事業の対象者や人数、簡単な事業内容、担当課などを右端にでも記入されるとわかりやすいですね。庁内での連携も図りやすくなると思います。

(坂崎委員)

こうやって全てを挙げることはわかりやすいとは思いますが、事業数が多いと思います。選りすぐって後期に重点的にやっていく事業をもっとわかりやすく書くべきでは。環境づくりの項目ですが、個人的には情報の一元化というのは前から言われてとても重要なことだと思います。まだ出来ていないので、重点的にやるべきではないかと思います。小さいことをたくさんすることも必要かもしれないが、集約して大きなことを一つすることも必要だと思うので、優先順位をつける必要があるかと。人材育成についてもいつも同じメンバーで部屋だけ違うというようなことがあるのもっと新しい人の発掘が必要だと思います。力を入れてやる事業を外に向けてアピールする必要があるかなと。

(緒方会長)

そう考えると、重点を短期中期長期で1、2、3番と順番をつけていくことも可能でしょう。

(加藤委員)

文化活動や文化的資源という言葉が、アクションプランの宝を再認識するということに入っているけども、文化的資源とはどういう宝なのか聞かれたときに行政は答えられなければならない。すでに発見されて歴史ボランティアの人たちが紹介しているようなところではなくて、まだ未発掘なところの情報を集めて把握していないといけないと思います。例えばとある山には石がほとんどないのに一つだけ巨石があるとか、とあるところの石にはフリーメイソンの記号が描かれているとかいろいろあります。まだまだありますが、このようにいろんなところに散らばっている資源の情報を把握することが必要だと思います。先日、西小学校の講師に呼ばれました。また人とのつながりで古賀中の講師に呼ばれましたが、そこで思ったのは子どもたちの感性はとてもすごいなど。古賀中の子どもたちは九産大と協力して古賀市のマップ作りをするということで、やる気もあるし、感性もいい。それを先ほど出た巡回展覧会のときにでも飾ることが出来れば、他の学校もうちうちもとなるのではないかと思います。

(緒方会長)

情報の一元化という話が出てきたが、そこに通じることですね。

(坂崎委員)

計画としてやっていることは、宗像市とそう変わらないと思うんですね。青柳地区や小野地区はどうしても都市部の地区と比べて中央部への参加率が少ない。距離的な問題もあると思うので、そこを支援する政策があればいいと思います。地域格差があるかなと。

(緒方委員)

具体的にはどのような政策が必要だと思いますか。

(坂崎委員)

先ほども話に出ましたが、出前という方法が一つあります。またコミュニティバスのようなものを出すという手もある。バスの利用についても、買い物や通院といった生活支援の問題が前面に出ていますが、それ以外を目的として動く人もいると思うので、例えば文化的な何かとそれらをセットにするとか、その期間だけでもついでに文化イベントの会場も巡ってもらえるとかそういったことも必要かなと思います。

(中山副会長)

アート・バスも集合場所を近くにしてバスがそこまで来るようにしたらいいですね。親が気づかなければ車を出してもらえない。一番のしわよせがくるのが子どもたちだということを忘れないでほしいです。

(志賀委員)

竟成館高校との連携事業である子ども絵画教室について、進捗状況を教えてください。

(事務局)

まだ予算が確定していませんのではっきりとこうしますとは申し上げにくいのですが、竟成館高校とお話しをして小学生 10 人程度を対象に、竟成館のベーシックデザインコースの学生を講師として実施していければと考えております。

(緒方会長)

子どもたち、そして高校生への教育的効果をどう考えるかが大切です。それを行うことでどのように行動が変容するか、高校生が先生をする意味は、行政が行う事業なのでどのようにしたいか目標が必要だと思います。参加者や教える高校生にとってのメリットを明確にするといいですね。

(事務局)

本事業は竟成館からの要望もあり、企画段階から学生たちに関わってもらっています。審議会でもご指摘がありました子どもたちの描く力が衰えてきているという市の課題を高校生たちに伝え、その課題を解決するにはどのようなことをしたらいいのかということを考えてもらった結果、今回の絵画教室という形になりました。企画段階から関わることで、まちづくりを自分たちが担っているんだという当事者意識を芽生えさせ、郷土愛を深めることにもつながります。また、教える側の学生は、教えるために学び、教えることでまた学ぶことになるし、参加者側の子どもたちにとっても、年が近い講師の方がより親しみがわきやすく、接しやすいかなと思います。いい学びのサイクルが出来るように今後も竟成館との協議を進めていく予定です。

(緒方会長)

それは大変素晴らしいことですね。こういう事をきちんと発信すべきです。他市との差がでる古賀らしさにつながる試みだと思います。

(加藤委員)

子ども絵画教室はこども美術展の代替りの事業という位置づけですか。

(事務局)

厳密には代替りの事業ということではありません。こども美術展は自宅で描いた絵などを表彰・展示する事業ですが、子ども絵画教室は描く力をつける事業です。目的が異なりますが、文化課が実施する事業としては今年度まで美術展、来年度から絵画教室ということで進めています。

(結城委員)

お忙しいと思うけれど、市内には8小学校区あるが地元のコミュニティにも足を運んで説明してほしいです。そうすればそこからこういう人がいるよと紹介できる人がいるかもしれません。校区から人材を発掘してほしいし、何か地域として協力できることがあるかもしれません。せっかくアクションプランを各戸配布されても、わたしたちのように文化に関わっていたらこんなに素晴らしいことをしているんだとわかるけれど、一般の方々にはなかなか伝わらない。

(坂崎委員)

自分は青柳校区に住んでいますが、市立図書館への利用が少ないように思います。リーパスプラザこがでの色々な催しへの参加に、子どもたちは特に差が出てしまう。例えば、アート・バスでも集合場所をどうするか、参加しやすい状況を作る策も検討すべきだと思います。

(緒方会長)

市全体的な問題なのでなかなか難しいかもしれませんが、たしかに生活的支援のほかにも文化的なことといった精神的支援が必要だと思います。2025年問題として地域包括支援が進められていく中でそういったことも考えていく必要があるのでは

(西野委員)

地域、環境によって利点はそれぞれにあると思います。小野小の子どもたちは、西小校区の方は買い物も病院もちかくていいなと言っていたし、逆に西の方は、山部は歴史のものが多くていいなと言っていました。住んでいる場所によって感じ方が違うのかなと。また、千鳥小では千鳥ヶ池の生態観察のため池の中に1年に1回入っているとも聞いた。すごいことだと思います。

(中山副会長)

図書館に移動バスがきているのを見ました。県立のバスかもしれないが、工夫をすれば古賀でも色々な事業が出来るのではないのでしょうか。

(加藤委員)

子どもの感性を伸ばす取組をしてほしいです。私は昔から構想していることがあって、例えば、チョークで市役所駐車場の枠6枚一組で学校ごとに絵を描かせて、審査は総務課の2階から見て審査をしてみたら面白いと思います。とにかく子どもたちに思いっきり絵を描かせてあげたい。トロフィーの余りなどが各課にあると思うから、プレートと頭だけ変えればほとんど予算を使わない。チョークも安く買えるし、水で流せばすぐ消える。

(緒方会長)

庁内で今後も計画の案を回していく時に、いろんな意見が出るとは思いますが、それを見ながら審議会でも方向性をまとめていきたいです。予算が削減されていくのは致し方ないことでもあると思うので、単発ではなく、各課が協力して重点項目に取り組んでいくといいかと思っています。

4 その他事項（事務局）

次回の審議会は今年度最後となり、2月に行う予定としております。委員の皆様の任期も今年度までとなっております。任期満了に伴い、市民公募の募集を平成30年1月10日（水）より行います。以前は抽選にて委員の選出を行っていましたが、今年度より教育委員会内で選定委員会を立ち上げ、作文や経歴等による選定といたしますことをご報告いたします。また、市民公募以外の委員の皆様には個別にお話させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

5 閉会のことば（星野文化課長）

【終了】